

心のオアシス臨川小学校

副校長 石川 貴美子

「新しい元号は何になるのだろう。」とわくわく、どきどきしながら、発表を待ちわびていたのを懐かしく感じるほど、この1カ月で「令和」という元号が馴染んできました。臨川小学校の142年の歴史の中で元号がいくつ変わったことでしょうか。

先日、職員室で仕事をしていると1本の電話がかかってきました。「私は臨川小の卒業生です。私たちが埋めたタイムカプセルはどうなっていますか。」早速、タイムカプセルの埋めてある場所を見に行きました。そこは、「岩石園」と呼ばれている場所で、幼稚園門の脇にあります。昭和43年に出来上がった岩石園には、100周年のときに埋めたタイムカプセルがありました。100周年の記念誌を読んでもみると、

これまで100年間の歩みと私たちの生活のありさまをタイムカプセルにつめて校庭の片隅に埋めることになりました。臨川小学校の歴史と私たちの生活の様子を50年後のお友だちに伝えるためです。50年後の人たちはどんな生活をしているのでしょうか。そして今の私たちの生活の様子を知ってどんなことを感じるのでしょうか。

と書かれていました。地域の方にお話を伺うと他の時代にも岩石園にタイムカプセルを埋めてあることがわかりました。8年後の150周年のときに開けてみるのだそうです。

臨川小の同窓会は140周年のときに発足しました。初代会長は秋山洋祐さんです。より多くの卒業生に発足を知ってもらいたいと広報活動を進めています。先日、広尾商店街の「大鮪まつり」に同窓会のブースを作ってご案内をしました。多くの方がとても懐かしく思って、声を掛けてくださり、嬉しかったです。長い間、本校が地域の方々に愛されていることを感じました。卒業されても心に留めて頂ける本校のよさを子供たちに伝えていきたいと感じました。

都会の中にありながら、本校には緑が多く茂っています。校章にある桜の木の他にビワやザクロ、あんずなどの実のなる木もあります。校庭の花壇には四季を感じる花々や野菜の苗が植えてあります。

100周年のときに発足した「臨川応援団」の方々が植物の世話をしてくださって、屋上も花壇や畑になっています。先日、1年生がサツマイモの苗を植えに行きました。初めて屋上に来た子供たちからは、「すごーい。」「いい匂い。」「わー高い。」「広い。」などの歓声があがりました。臨川応援団の大澤さんからサツマイモの苗の植え方を教わり、慣れない手つきで苗を植えました。昨年の1年生はたくさんのサツマイモが収穫出来て、それをスイートポテトにしました。今年の1年生のサツマイモがどのように育つのか楽しみです。

5年生は、稲を育てています。休日も稲のことが心配で稲の水やりにくる子供たちがいます。昨年も、お米が収穫できて、それを精米し、家庭科の時間に食べていました。長い時間をかけて育てたお米の味は格別だったようです。

つくし学級では、スイカやナス、ピーマン、じゃがいもなど年間とおして様々な野菜を育てています。どのように植物が生長していくか丁寧に観察し、生活単元学習では自分たちの育てた野菜を使って工夫しながら調理に取り組んでいます。



サツマイモの植え方を聞く1年生 タイムカプセル

地域の方々に愛され、大事にされている本校で子供たちは自然に触れ、様々な体験をしています。そうした学習をとおして今年度目標としている「臨川プライド」が育まれていくように感じます。